

近からう。しかしそれにしてもまだ多く数へ過ぎてゐるかも知れぬ。

クリカラヤマ 俱利伽羅山 河北郡の東北越中との界に在つて高二七七米。山上に俱利伽羅権現を祀る。一に俱梨伽羅・俱理伽羅・九龍伽羅・栗柄・栗茂と書し、又彌波山とも彌並山とも稱して北陸道がこれを横断する。壽永二年源平二氏この附近に戦つたを以て有名である。源平盛衰記に『俱利伽羅といふは、加賀と越中との境なり。嶺に一字の伽藍あり。昔越の大徳、諸國修行し給ひしに、俱利伽羅明王法を行ひ給ひたりしかば、其よりして此山を俱利伽羅嶽とも申すとか。越中國彌波郡の山なれば、彌波山とも申すめり。谷深うして山高く、険難にして道細し。馬も人も行違ふこと輒からず』とあるものは、その地の概況である。所謂一字の伽藍とは、手向神社の宮寺長樂寺のことである。

クリタキユウエモン 栗田久右衛門 御馬廻組に屬し、二百石を受けたが、收納米を二重敷にした罪發覺し、貞享元年六月十九日前田左京に御預となり、八月廿五日能登に流され、子源石衛門別に新知二百石を受けた。

クリタタダヤス 栗田忠穂 通稱十郎兵衛。寶曆三年平左衛門長宣の祿三百石を襲ぎ、組外に列し、明和三年百五十石を減じ、天明五年十一月廿四日五ヶ山に流刑を命ぜられ、十二月十一日出發した。時に年五十七歳。養子無理兵衛亦同刑に處せられた。

クリタタネアキ 栗田胤明 通稱源左衛門。寛保二年養父源右衛門の遺知二百石を襲ぎ、組外に班した。明和三年十一月晦日金澤城内東丸なる大銀奉行所管の倉庫に侵入して、夥

多の金銀を盗み去つた者がある。之を久しうして犯人を逮捕し得なかつたが、源左衛門が啓て窮迫せしに拘らず、舊債を辨償し、服飾器玩を買ふ等のがあつたから、四年正月十三日年寄横山隆達は、源左衛門の頭役岩田傳左衛門をして彼の素行を調査せしめ、十八日を以て捕縛するに決した。源左衛門乃ち情を知り、同日拂曉その妻と三子とを刺殺し、己も自刃した。源左衛門が刺した金銀は、町人細屋太郎左衛門が隠匿して居たが、小判六百十八兩、丁銀一枚五十五匁五分、壹歩金二千五百九十一匁、銀七貫九匁、小玉銀六十五匁あつた。藩臣で藩有の金銀を盗んだこと此くの如きは、前後その比類を見ぬ。

クリタテンベエ 栗田傳兵衛 前田利家に仕へて二百石を領し、寛永十三年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

クリタヨザエモン 栗田與左衛門 伊藤又左衛門の子。氏を改めて前田利常に仕へ、二百五十石を領した。子孫相繼いで藩に仕へる。

クリノキバヤシ 栗ノ木林 石川郡泉野領岸川がけの上に、元和二年の頃柿木栗木林・宿荷蘭を作り、又野田道右の方に油木數千株を植ゑて、三ッ屋といふ所の土蔵に木質を入れ、城中用の灯油を製したといふ。泉野の一部に栗ノ木林の名の起つたのは是に因る。

クリバヤシアト 栗林跡 石川郡浦波新・上野新・三口新の入會に栗林跡と稱し、無家であるが、邑名の如くなつてゐた地がある。明暦元年の新開であるといはれる。明治中に至り栗林地方と稱し、獨立の部落として取扱ひ、後更に浦波新と三口新とに分屬せしめることにした。

クリバヤシジカク 栗林地方 ↓クリバヤシアト 栗林跡。
クリバヤシタエモン 栗林木右衛門 前田利家に召出された御大工である。後に前田利政に仕へて知行三百俵を受けた。
クリバヤシニザエモン 栗林仁左衛門 加賀藩初の御大工で、五十俵二人扶持を賜はつた。

クリフホ 栗生保 ↓アハフホ 栗生保。
クリヤマ 栗山 羽咋郡土田庄に屬する部落。能登名跡志に、『印内村・矢田村・栗山村三ヶ所は紙漙所也』とある。

クリヨウバシ 久龍橋 能美郡小松に在つて、九了橋とも九龍橋とも書いてある。能美郡名跡志に、昔この橋を架けて居た際、板津の庄下の郷一揆大將久了某といふ者が乗打した爲に射殺された。それより久了橋と名づけられたとある。或は越前の朝倉氏が加賀の一揆を討伐した頃、本郡赤井に在つた稱名寺の僧了信の弟に空了といふものがこゝで戦死した。故に空了橋といふたのが後に九龍橋になつたともいふ。三番記には、寛永十六年前田利常が小松を菟裘の地とした時、町中立替り、橋橋くれう橋も少し川上へ架けかへられたとある。

クルクル 来々 親元日記文明十三年三月廿五日の條に能登の畠山左衛門佐の献上物を載せて、『公方様へ白鳥一、海鼠麩五十桶、来々五十。』と見える。長家雜記永祿四年續速公御亭へ畠山義則公御招請之御献立にくるくるとあるのも来々である。嬉遊笑覽に『鶴の鷹を不來不來と云て正月用ゆ。名詮あしきによつて中頃より来々と書たり』とあるが、親元

日記に五十と數へて居るから別物のやうにも思はれる。
クルスモン 久留子紋 加賀藩士中で久留子紋を用ひたものに中村氏がある。中村典膳筆記の松雲公夜話追加に『私紋所度々御尋被遊、宜敷紋に候由御意に而、名を御尋被遊候。はなくるすと前々より申傳へ候よし申上候處、根本何を直したるものに候哉と、金澤紺屋など御尋有之候へども相知不申候。』とあるもの即ち是で、その同姓十一家皆花久留子を用ひた。但しこの中村氏がもと基督教徒であつたか否かは明らかでない。世人又藩の老臣横山氏の家紋出を、康玄の妻が高山南坊の女であつた爲に、久留子紋であらうと考へる者もあるが、これは康玄の父長知時代から用ひられて居るもので、長知は幼年の際越前大野の岫巖寺綱天に學んだが、そこを辭した際綱天から卍を描いた經帷子を興へられ、後戰陣に出づる毎に之を着して功を擧げたから、從來の三葉柏を裏紋として、卍を用ひるに至つたと傳へられる。

クルマ 車 河北郡井上庄に屬する部落。
クルマバシ 車橋 金澤橋架記に、『車橋、寶久寺下』とある。此の橋は大田田用水に架けた板橋で、その邊に水車があつたから車橋と呼んだのである。今は大豆田用水が廢せられた爲其の橋も絶えた。

クルマバシモン 車橋門 金澤城内御花畑の内、高石垣の角から百間堀の方に出る口にある小門をいうた。往古この所に車仕掛で半ば引入られる橋があつた爲の名である。

クルミダニ 狹谷 羽咋郡甘田保に屬する部落。享保の調書には、柴垣村の枝村執谷村と